

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101174		
法人名	社会福祉法人 日新会		
事業所名	グループホームあかし		
所在地	甲府市上町2473		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年11月9日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人が有する能力を最大限に活かし、役割や生きがいをもち生活している。高齢者としての尊厳を尊重して老化していく日々を受け止め共有しながら看取りもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は畑に囲まれた静かな場所にあるが、近隣には国道や公園、ショッピングセンター、飲食店等が複数あり利便性が高い環境にある。3階建ての1階に呑番館、同じ敷地内の平屋建てが式番館で別棟の2ユニットになっている。他に同法人が運営する特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスが併設されており、災害対策・行事の開催等に協力体制がとれている。自治会に加入し、地域住民やボランティアの受入れを積極的に行い交流している。日々、利用者一人一人の個性や得意な分野を表出できるような支援を心掛け、尊厳を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(壹番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、自分らしく、地域と共に歩む」を基本理念に掲げスタッフ全員で今年度の理念を考えそれに向かって取り組んでいる。	「明るく、楽しく、自分らしく地域と共に歩む」を基本理念に掲げスタッフ全員で今年度の理念を考えそれに向かって取り組んでいる。	毎年、職員全員で理念を検討している。基本理念に加えて今年は「笑顔あふれる貳番館を目指して」等を理念に掲げ、朝夕の職員会議で確認したり、管理者が助言することで職員間で意識づけたり共有できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物また地域行事に参加している。ホームで行われるイベントに地域の方を招待している。	回覧板を通しホームでの様子を知らせている。	自治会に加入しており回覧板が来たり、事業所便りも回している。近隣の住民の方にはこちらから挨拶するよう心掛け、納涼祭やクリスマス会に招待している。地域の道祖神祭り・稲荷祭り・運動会には参加し外出している。保育園児や定期的なボランティアの受け入れ等交流の機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に「認知症の対応」を書き認知症の理解を広めている。	回覧板に「認知症の対応」を書き認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を反映させている。	様々な意見を反映させている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者、家族をはじめ地域の役員、有識者、地域包括センター等が常に出席している。地域行事や災害対策の情報交換や事業所でのヒヤリハット事例等の意見交換を行い、事業所での支援に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアプランについて記入方法などを聞いている。	ケアプランについて記入方法などを聞いている。	介護保険の更新や申請、認知症に関する研修の実施について市の担当者と相談している。運営推進会議に市の担当者が参加していないので、議事録や情報誌を届けて情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。	毎月1回法人全体の委員会で報告や研修があり、内容は事業所のミーティングや職員会議で共有している。特に入職時にはしっかりと指導を行っている。玄関は夜間以外は開放されているので外出したい利用者には付き添いを行っている。自分が言われて嫌な言い方はしないように心掛け、スピーチロックや行動の制限等に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い虐待は行っていない。	高齢者虐待防止についての研修を行い虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を随時行っている。1名が成年後見人制度を利用している。	研修を随時行っている。1名が成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際説明を行い同意を得ている。	契約を行う際説明を行い同意を得ている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(沓番館)	ユニット名(沓番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、面会時に要望を聞くようにしている。	アンケートを実施し面会時に要望を聞くようにしている。	年2回(4月当初・クリスマス会)に家族アンケートをとり、その場で記入してもらったり、年1回家族会を開いている。又、職員が担当別になっているので、面会や行事等の折には意見を聴くようにしているが、特別な要望はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日職員ミーティングを行い、意見があればその都度話し合っている。	毎日職員ミーティングを行い、意見があればその都度話し合っている。	職員の自己評価をしてケアについての振り返りをしている。職員の気づきや要望についてはその都度意見を聴き、必要に応じて対応している。職員からの提案で、行事の際には職員が分かりやすいように同じTシャツを着用することになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスを職能に応じ支給している。	ボーナスを職能に応じ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を積極的に受けてもらっている。また、外部で必要な研修への参加を促している。	法人内の研修を積極的に受けてもらっている。また外部での必要な研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加して交流を図っている。	グループホーム協会の研修に出席し交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し意向を聞いている。	入居前に本人と面談し意向を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し意向を聞いている。	入居前に家族と面談し意向を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。	出来る能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(沓番館)	ユニット名(沓番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ホームでの様子を伝え情報を共有しています。家族しかできない事は願っています。	行事に参加してもらったり面会時には情報を共有し家族しか出来ない事は願っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人が会いに来る。	教会での友人が会いに来ている。	昔からの友人や職場の同僚、家族の面会の機会が多く、面会簿を見ることで来訪者の状況が家族に伝わっている。ショッピングや食材の購入に出かけたり、墓参りに外出することもある。定期的に美容師が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様は同じテーブルにしたり、職員が間に入り話しやすい環境をつくっている。	職員が間に入り話しやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行った入居者に会いに行く機会を作っている。	他施設に行った入居者に会いに行く機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員を決めており、利用者の想いを把握しやすい関係を楽しんでいる。言葉に出来ない方もちょっとしたサインを見逃さないように留意している。個々の方の趣味を生かしたり、月に1回の外出では好きな物を食べたり、利用者の笑顔が見られるような支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人から生活歴を聞き把握している。	入居時に家族や本人から生活歴を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活出来るように支援している。	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	入居前からの生活をアセスメントし、暫定プランを作成する。3ヶ月で見直し本プランを作成するが、必要があればその都度変更する。ふれあいマッサージを取り入れたい希望があり、家族、職員、医師の意見を聴きながら計画に加えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や毎日のカンファレンスで気づいた事を話し合いケアに活かしている。また毎月のアセスメントもケアに活かしている。	ケア記録や毎日のカンファレンスで気づいた事を話し合いケアに活かしている。また毎月のアセスメントもケアに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(沓番館)	ユニット名(沓番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。又訪問美容院も取り入れている。	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。又訪問美容院も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援を行っている。	買い物支援をおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週2回回診に来ている。またターミナルケアを行っている。	嘱託医が週2回回診に来ている。またターミナルケアを行っている。	週2回、利用者全員が嘱託医の往診を受けている。診療科目によっては家族の協力を得て通院しているが、出来ない場合は職員が付き添っている。歯科も訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師が対応してくれる。	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師が対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。	入院時は介護サマリーにて情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族がホームでのターミナルを望んでいる為、重度化、ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族がホームでのターミナルを望んでいる。重度化、ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	重度化、ターミナルケアについて指針があり、書面で家族に説明し、意向を確認している。ターミナルケアの希望はあるが、その時の状況に応じて家族と相談しながら対応している。家族が宿泊できる体制や医師の回診等体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法・AEDの研修を受けている。	救急法・AEDの研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えて貰っている。消防団には、ホーム内の点検をしてもらっている。	昼夜を想定した避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えてもらっている。消防団には、ホーム内の点検をしてもらっている。	事業所では年4回、法人全体で1回の避難訓練を実施している。火災、水害、地震災害を昼夜想定して訓練している。消防署、地域の消防団の協力・指導がある他、法人施設に応援要請したり、エレベーターが使用できない場合の対策、備蓄等についても検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修を行いプライバシーに努めている。	プライバシーについての研修を行いプライバシーに努めている。	利用者の尊厳とプライバシー保護に留意し、特にトイレ、入浴、失禁時等の言葉かけは周囲に配慮して行っている。方言も状況に応じて使い分けている。日頃から、管理者が言葉は大切であり、職員一人一人が配慮するように伝えている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(壹番館)	ユニット名(貳番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が進んで入居者様と会話を行い会話の中から本人の思いや希望を聞いている。	様々な場面で話しを聞く機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を聞き支援している。	本人の意見を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片づけ等で出来る力を把握し一緒に行っている。	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片づけ等で出来る力を把握し一緒におこなっている。	食事のメニューは本を見せて利用者の意見を聴いて決めている。調理、食器拭き、食器洗い等を職員と共にする方もいる。食材の購入にはカート歩行器代わりにして一緒に食材の購入をする。季節の行事食や家族との外食等食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で把握している。	食事チェック表で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるよう支援している。	毎食後、口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元にパターンを把握しおむつゼロを行っている。	排泄チェック表を元にパターンを把握しおむつゼロを行っている。	パットを使用しているが、オムツ使用の方はいない。全員が普通のパンツを使用している。排泄チェック表をつけることで、失敗の時間を把握し、トイレ誘導するタイミングをみている。徐々にタイミングが合い失敗は少なく、普通のパンツで過ごせるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳・食物繊維が多い食品を提供している。	ヨーグルト・牛乳・食物繊維が多い食品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴を行える様になっている。	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴を行える様になっている。	毎日入浴できる体制がある。概ね週3回～4回入浴している。同性介護に配慮し、入浴を拒む利用者に対しては無理強いしないで利用者の気持ちを尊重している。季節感があるゆず湯、バラ湯等を楽しんでいる。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(沓番館)	ユニット名(沓番館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠時には横になれるよう支援し、昼寝をされた方には休んで頂いている。	傾眠時には横になれるよう支援し、昼寝をされた方には休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が何の薬を服薬しているか、また副作用についても把握している。	誰が何の薬を服薬しているか、また副作用についても把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を常時準備し散歩等の支援も行っている。	嗜好品を常時準備し散歩等の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族も一緒に外出出来るよう支援している。	外へ出て好きな物を食べられるよう支援している。地域の協力もあり外食の機会を作っている。	季節や天候を見て日常的な散歩をする場合もあるが、家族との外出や紅葉狩り等を楽しむ機会もある。高齢化に伴い外出を希望することが少なくなっているが室内での体操や手作業、趣味等で五感を刺激している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものがあれば一緒に出掛けている。	買いたいものがあれば一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡して欲しい時には代わりにかけている。家族からの手紙は本人に渡している。	家族に連絡して欲しい時には代わりにかけている。家族からの手紙は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温・湿度計にて不快が無いように管理している。室内の清潔にも心がけている。また季節を感じて頂ける様、季節の行事も行ったり飾ったりしている。	温・湿度計にて不快が無いように管理している。室内の清潔にも心がけている。また季節を感じて頂ける様、季節の行事も行ったり飾ったりしている。	廊下は広く、ホールにはソファが置かれている。室内の温度、湿度の管理に気を付け、窓を開けたり、デッキに出てお茶を飲んだりして気分転換できるようにしている。清掃を好きな方がモップかけをしたり、洗濯物たたみが得意な方はタオルを片付けたり、ピアノを弾いたりと思い思いの時間をゆったりと過ごすことができる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具等を持って来て頂き馴染みの物を全て使用している。	自宅で使用していた寝具等を持って来て頂き馴染みの物を全て使用している。	利用者と家族がベッドやタンス、仏壇等必要な物や好みの物を自由に配置している。壁には誕生カードや家族写真が飾られ、居室の入口には行事や外出時の様子が分かる写真が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やトイレが分かるようにしている。	居室の入口やトイレが分かるようにしている。		